動物たちがやってきた！

私たちの保育園では、カエルのまつこさんを筆頭に、カブトムシやカメ、メダカや金魚などの生き物も共に生活している保育園です。日々、園庭や公園で出会う、バッタやカマキリなどの虫やオタマジャクシなどの水生生物に出会ったとき、子どもたちは夢中になって追いかけている姿をよく目にします。バッタを追いかけているとき、バッタや風や太陽や友達など、その場のさまざまなものも一体となり、飲み込まれ、世界と一体になりながら夢中でバッタを追いかけているのだと思います。そんな世界と一体となっている瞬間は、子どもたちにとって生きている実感や、「ああ！楽しかったね！」「明日もやろうね！」「うん！また明日ね！」というただただ楽しかったというような毎日の中に必要なものだと思うのです。

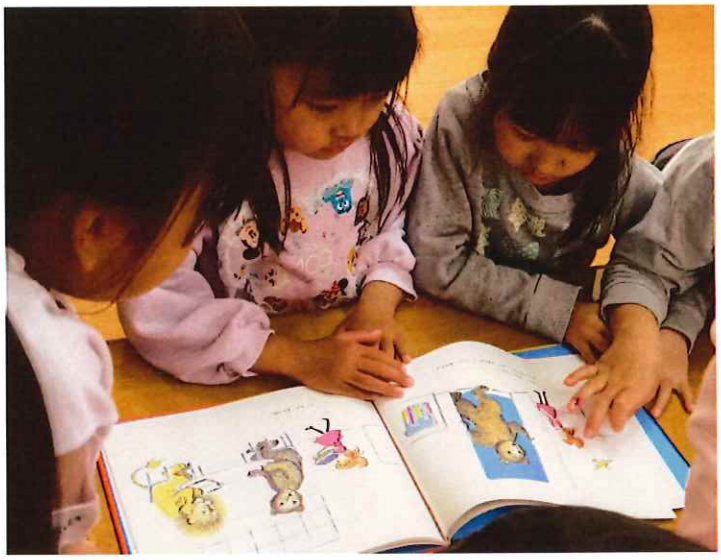
今年度は、本園での貸し出し絵本で貸し出されている絵本の種類を調べてみました。すると、動物絵本が多いことが分かり、子どもたちと話し合い、動物を保育園に招待しました。

日常の生活では出会うことのない、うさぎやモルモット、ヤギやひつじ、あひるにかめ、ポニーなどの動物たちに、最初は恐々しながらも、次第に動物たちと一体になって楽しそうな声が色んなところから聞こえていました。「ごはんあげたら怖いかな？」「そーっとあげてあげよう」「どこからきたの？」「目が合うんだよ！」などと動物たちと子どもたちで世界と一体になりながら、夢中になって遊んでいる様子でした。

また、5歳児がみつけたおすすめの動物絵本を他のクラスのお友達にも紹介したい！と他のクラスの先生のところに持っていき、読んでもらう様子もありました。自分たちで話し合い、決まったいいことを自分たちのクラスだけでなく他のクラスでも共有しよう！となる様子も素敵な姿だなと思い保育者として援助を行いました。

動物も人間も自然も、ともにありながら、世界をつくり、その世界に飲み込まれていく体験を保障していくことの重要さを感じます。それは、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』でジョバンニが銀河鉄道に乗って旅をしたように、モーリス・センダックの『かいじゅうたちのいるところ』でマックスがかいじゅうの世界で王様をしたように、ジョーン・G・ロビンソンの『思い出のマーニー』で安奈がマーニーに出会ったように、自己と世界との境界線が解け、世界と一体になる体験は、豊かな情操を育み生きる力や、生きていくための土台を作ってくれると考えています。

今回、動物たちと出会った子どもたちにもそのような世界と一体となる瞬間があったのではないかと保育者として感じています。



かくれんぼ